



ARIUS

YDP-161

YDP-141

取扱説明書

組み立て説明については巻末をご参照ください。

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

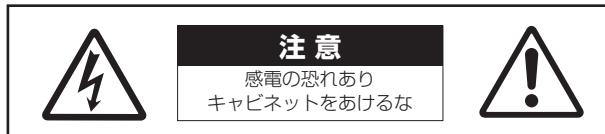
■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

	警告	この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
	注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

■ 本体に表示されている注意マークについて (YDP-161)

本体には、次の注意マークが付いています。



これは、以下の内容の注意を喚起するものです。

「感電防止のため、パネルやキャビネットを外さないでください。内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。」

! 警告

電源 / 電源コード / 電源アダプター



禁止

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



必ず実行

電源は必ず交流 100V を使用する。

エアコンの電源など交流 200V のものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源アダプターは、必ず指定のもの (37ページ) を使用する。(YDP-141)

異なる電源アダプターを使用すると、故障発熱、火災などの原因になります。



必ず実行

電源コード / プラグは、必ず付属のものを使用する (YDP-161)

他の電源コード / プラグを使用すると、発熱や感電の原因になります。



必ず実行

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

感電やショートのおそれがあります。

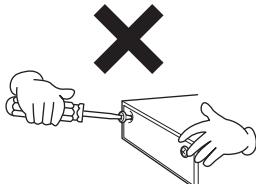
分解禁止



禁止

この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。



水に注意



禁止

本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。感電のおそれがあります。

火に注意



禁止

本体の上にろうそくなど火気のあるものを置かない。

ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

異常に気づいたら



必ず実行

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- ・電源コード / プラグがいたんだ場合
- ・製品から異常ににおいや煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

⚠ 注意

電源 / 電源コード / 電源アダプター



たこ足配線をしない。

音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。

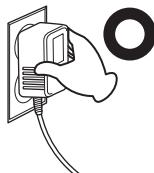
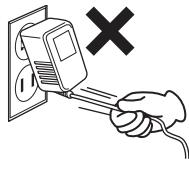
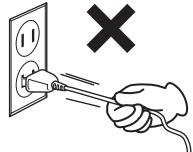
禁止



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



必ず実行

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電や火災、故障の原因になることがあります。



必ず実行

本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。

コードをいためたり、お客様や他の方々が転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

この機器を電源コンセントの近くに設置する。

電源プラグに容易に手の届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

接続



必ず実行

すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小にする。

感電、聴力障害または機器の損傷の原因になります。



必ず実行

演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。

聴力障害または機器の損傷の原因になります。

組み立て



必ず実行

本書の組み立て方の説明をよく読み、手順どおりに組み立てる。

手順どおりに正しく組み立てないと、楽器が破損したりお客様がけがをしたりする原因になります。

取り扱い



禁止

キーカバーや本体のすき間に手や指を入れない。また、キーカバーで指などをはさまないように注意する。

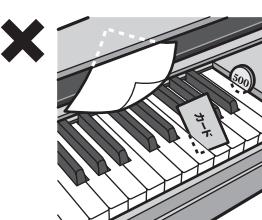
お客様がけがをするおそれがあります。



禁止

キーカバーやパネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。

感電、ショート、火災、故障や動作不良の原因になることがあります。



設置



禁止

不安定な場所に置かない。

本体が転倒して故障したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。



禁止

本体の上にのったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、出入力端子などに無理な力を加えない。
本体が破損したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。



禁止

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。

聴覚障害の原因になります。



イス



禁止

不安定な場所に置かない。

イスが転倒して、お客様や他の方々がけがをする原因になります。



禁止

イスで遊んだり、イスを踏み台にしたりしない。

イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。



禁止

イスには二人以上ですわらない。

イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。



禁止

(高低自在イスの場合) イスにすわったままでイスの高さを調節しない。

高低調節機構に無理な力が加わり、高低調節機構がこわれたりお客様がけがをしたりする原因になります。



必ず実行

イスのネジを定期的に締め直す。

イスを長期間使用すると、イスのネジがゆるむことがあります。ネジがゆるんだ場合は、付属のスパナで締め直してください。



必ず実行

イスの脚で床やたたみを傷つけないよう注意する。

イスの下にマットを敷くなどして、床やたたみを保護されることをおすすめします。

- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。

電源スイッチを切った状態 (YDP-141 は電源スイッチが「スタンバイ」の状態) でも微電流が流れています。スタンバイ時の消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

注記（ご使用上の注意）

製品の故障や損傷、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

■ 製品の取り扱い / お手入れに関する注意

- ・テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。
- ・直射日光のある場所（日中の車内など）やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。
- ・本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体のパネルや鍵盤が変色 / 変質する原因になります。
- ・手入れするときは、乾いた柔らかい布、または水を固くしぼった柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色 / 変質する原因になりますので、使用しないでください。
- ・極端に温湿度が変化すると、本体表面に水滴がつく（結露する）ことがあります。水滴をそのまま放置すると、木部が水分を吸収して変形する原因になります。水滴がついた場合は、柔らかい布ですぐに拭きとってください。
- ・ペダルは一般的なアコースティックピアノ同様経年変化によって変色することがあります。その際はピアノ用コンパウンドを楽器店などでお買い求めいただき、使用上の注意をよくご確認のうえご使用ください。

■ データの保存に関する注意

保存したデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、コンピューターに保存してください。

取扱説明書について

この楽器のさまざまな機能を十分に活用するために、この取扱説明書をよくお読みになってからご使用ください。なお、読み終わったあとも、不明な点が生じた場合に備えて、保証書とともに大切に保管していただきますようお願いいたします。

この取扱説明書は、以下のように構成されています。

冊子マニュアル

取扱説明書（本書）

クイックオペレーションガイド（別紙）

ボタンや鍵盤に割り当てられた機能の操作を詳しく説明しています。

電子マニュアル

ヤマハマニュアルライブラリーのウェブサイトからご覧いただけます。インターネットに接続して以下のウェブサイトを開き、「モデル名から検索」テキストボックスにモデル名（「YDP-161」など）を入力して「検索」をクリックします。

ヤマハマニュアルライブラリー <http://www.yamaha.co.jp/manual/>

データリスト

「MIDI データフォーマット」や「MIDI インプリメンテーションチャート」などの MIDI に関する資料が掲載されています。

MIDI 入門

MIDI についての詳細や使い方を説明しています。

最新の Adobe Reader は下記の URL よりダウンロードできます。

<http://www.adobe.com/jp/>

お願いとお知らせ

■ データの著作権に関するお願い

- ヤマハ（株）および第三者から販売もしくは提供されている音楽／サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- この製品は、ヤマハ（株）が著作権を有する著作物やヤマハ（株）が第三者から使用許諾を受けている著作物を内蔵または同梱しています。その著作物とは、すべてのコンピュータープログラムや、伴奏スタイルデータ、MIDI データ、WAVE データ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどのコンテンツを含みます。ヤマハ（株）の許諾を受けることなく、個人的な使用的範囲を超えて上記プログラムやコンテンツを使用することについては、著作権法等に基づき、許されていません。

■ 製品に搭載されている機能 / データに関するお知らせ

- 内蔵曲は、曲の長さやイメージが原曲と異なる場合があります。

■ 取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- MIDI は社団法人音楽電子事業協会 (AMEI) の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

目次

準

準備

安全上のご注意	2
ご使用上の注意	5
取扱説明書について	6
目次	7
特長	8
付属品（お確かめください）	8
各部の名称と機能	9
ご使用前の準備	10
キーカバーについて	10
譜面立てについて	10
電源を入れる	11
音量（ボリューム）調節	12
ヘッドフォンを使う場合	12

本編

デモ曲を聞く	13
ピアノ50曲（プリセットソング） を聞く	14
コンピューターから読み込んだソング を聞く	15
音色を楽しむ	16
音色を選ぶ	16
ペダルを使う	17
ダンパーレゾナンス（YDP-161）	17
音に残響を付ける（リバーブ）	18
2つの音色を重ねる（デュアル）	19
キー（調）を変える（トランスポーズ）	20
音の高さを微調整する（チューニング）	20
メトロノームを使う	21
タッチ感度を設定する	22

演奏を録音する

演奏を録音する	23
録音した演奏を再生する	25
録音した演奏を消去する	25

パートを指定して、演奏を聞いてみる / 片手練習する

パートを指定して、演奏を聞いてみる / 片手練習する	26
MIDI機器の接続	27
MIDIって何？	27
MIDIでできること	27
コンピューターと接続する	28
コンピューターと楽器間でソングデータ を送受信する	28
バックアップデータと初期化（イニシャライズ） の方法	29

MIDIに関する設定をする	30
MIDI送信 / 受信チャンネルの設定	30
ローカルコントロールオン / オフの設定	30
プログラムチェンジ送受信オン / オフの設定	31
コントロールチェンジ送受信オン / オフの設定	31

困ったときは

付録

YDP-161/141の組み立て方	33
別売品のご紹介	37
仕様	37
索引	38
保証とアフターサービス	39

特長

■ 「ピュア CF ボイス」搭載

ピュア CF ボイスは、ヤマハ最高峰のフルコンサートグランドピアノ「CFⅢS」から最高の1台を選び、最新の技術でサンプリングしたピアノ音色です。原音に忠実で弾き応えのある、豊かで自然なピアノ音色に仕上がっています。

■ AWM ダイナミックステレオサンプリング

この楽器は、ヤマハ独自のサンプリング音源システム「AWM ダイナミックステレオサンプリング」による豊かな音色を備えた電子ピアノです。

「AWM」とは、楽器そのものの音をデジタル録音し、精度の高いデジタルフィルター技術を加え、リアルに再現するヤマハのサンプリング方式です。鍵盤を弾く強さに応じて複数の波形をサンプリング（ダイナミクサンプリング）しており、よりアコースティックピアノらしい表現力豊かな音を実現しています。

■ グレードハンマー（GH）鍵盤 / グレードハンマースタンダード（GHS）鍵盤

YDP-161 には「グレードハンマー（GH）鍵盤」、YDP-141 には「グレードハンマースタンダード（GHS）鍵盤」を搭載しています。

それぞれ低音部は重く、高音部は軽い、グランドピアノに近い自然な弾き心地で演奏できます。

さらに「グレードハンマー（GH）鍵盤」は連打性にも優れており、表現力を向上させています。

■ レッスンに役立つ機能

自分の演奏を、右手、左手とパートごとに録音／再生でき、また内蔵しているピアノ50曲も、パートを別々に再生しながら片手ずつ練習できます。また正しいテンポ感を身につける「メトロノーム機能」もピアノレッスンをサポートします。

付属品(お確かめください)

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 保証書 | <input type="checkbox"/> ヘッドフォン |
| <input type="checkbox"/> 取扱説明書（本書） | <input type="checkbox"/> イス |
| <input type="checkbox"/> クイックオペレーションガイド（別紙） | <input type="checkbox"/> (YDP-161) 電源コード |
| <input type="checkbox"/> ピアノで弾く名曲50選（楽譜集） | <input type="checkbox"/> (YDP-141) 電源アダプター |
| <input type="checkbox"/> ヤマハオンラインメンバー製品ユーザー登録のご案内 | |
| * ユーザー登録の際に必要となるプロダクトIDが記載されています。 | |

■ 調律について

この楽器は調律の必要がありません。

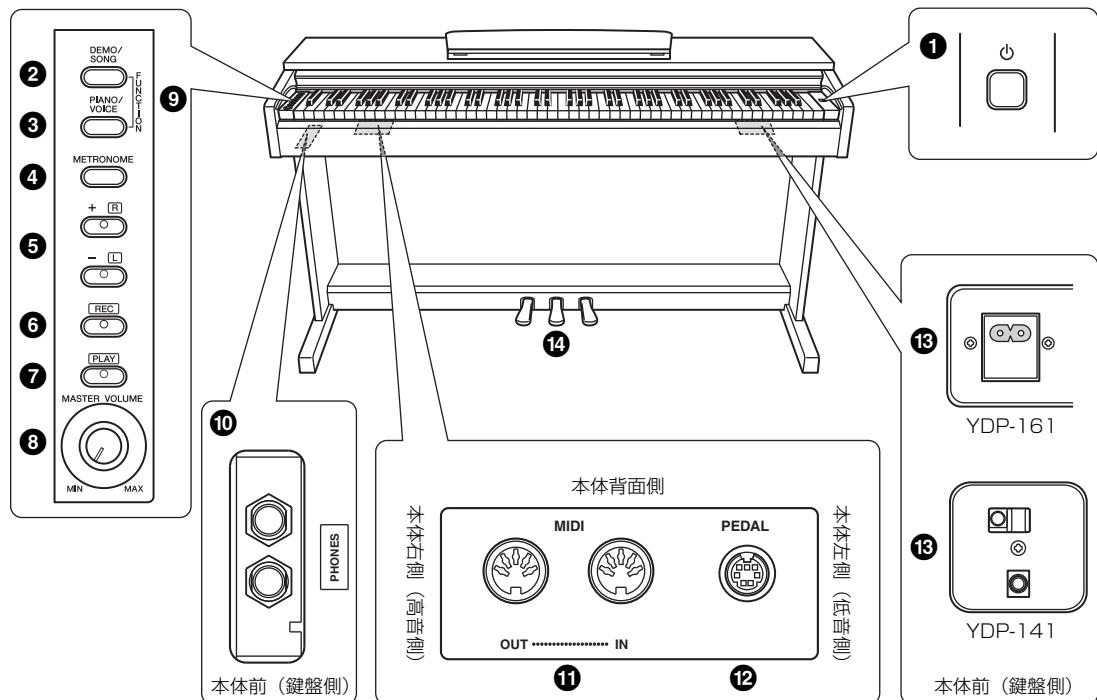
■ 引っ越しの際は

通常の荷物と一緒にお運びいただけます。組み立てた状態でも、組み立てる前の部品に分解した状態でも問題ありませんが、本体は立てかけたりせず、必ず水平に置いてお運びください。また、大きな振動、衝撃を与えないでください。組み立てた状態でお運びいただいた場合は、設置の際、各部のネジのゆるみを確認し、ゆるんでいる場合は締め直してください。

各部の名称と機能

準

備



- ① [①] スイッチ 11 ページ**
 (YDP-161) 電源スイッチ、(YDP-141) スタンバイ / オンスイッチです。YDP-161 は電源のオン (■) / オフ (□)、YDP-141 は電源のオン (■) / スタンバイ (□) を切り替えます。
- ② [DEMO/SONG] ボタン 13 ページ**
 デモ/ソング 音色ごとのデモ曲やピアノ 50 曲 (プリセットソング) を聞くことができます。
- ③ [PIANO/VOICE] ボタン 16 ページ**
 ピアノ/ボイス グランドピアノをはじめとした 10 種類 (YDP-161) / 6 種類 (YDP-141) の音色から一つの音色を選択できます。また、2 つの音色を重ねて使うことができます。
- ④ [METRONOME] ボタン 21 ページ**
 メトロノーム メトロノームの機能を利用できます。
- ⑤ [+ R] [- L] ボタン 13, 16, 23 ページ**
 曲や音色などを選択したり、値を変更したりすることができます。曲の再生中 [PLAY] ボタンを押しながら、[+ R] または [- L] ボタンを押すと曲のパートのオン / オフを切り替えることができます。
- ⑥ [REC] ボタン 23 ページ**
 レコード 自分の演奏を録音できます。
- ⑦ [PLAY] ボタン 25 ページ**
 プレイ 録音した演奏を再生できます。
- ⑧ [MASTER VOLUME] つまみ 12 ページ**
 マスター・ボリューム 音量を調節できます。
- ⑨ [FUNCTION] ボタン 20, 30 ページ**
 ファンクション デモ/ソング [DEMO/SONG] と [PIANO/VOICE] ボタンを同時に押したまま、指定した鍵盤を押すことにより MIDI に関する設定やトランスポーズの設定ができます。
- ⑩ [PHONES] 端子 12 ページ**
 フォーンズ ヘッドフォンを接続します。
- ⑪ [MIDI IN] [OUT] 端子 27 ページ**
 ミディ イン アウト MIDI 機器を接続して MIDI を活用できます。
- ⑫ [PEDAL] 端子 35 ページ**
 ペダル ペダルコードを接続します。
- ⑬ AC IN 端子 (YDP-161)、DC IN 端子 (YDP-141) 35 ページ**
 エーシー・イン エーシー・イン AC IN (YDP-161) は電源コードを接続します。
 ディーシー・イン DC IN (YDP-141) は電源アダプターを接続します。
- ⑭ ペダル 17 ページ**
 音を響かせたいとき、音質をやわらかくしたいたきなどに使用します。

ご使用前の準備

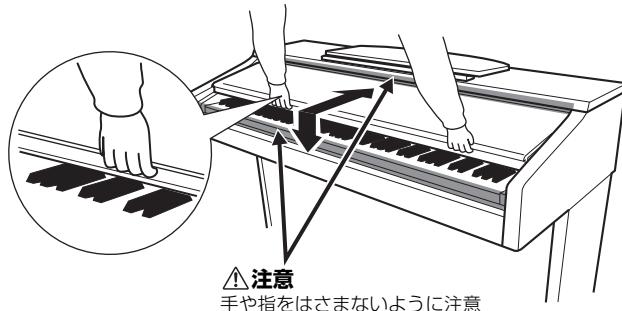
I キーカバーについて

開けるとき

少し持ち上げて、奥へ押し込みます。

閉めるとき

手前に引いて、静かに降ろします。



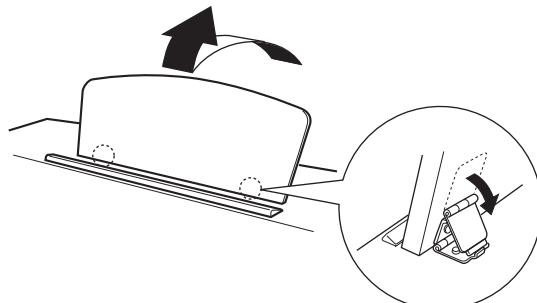
△注意

- ・キーカバーを開閉するときは、両手で静かに行ない、途中で手を離さないでください。また、ご自分や周りの方、特にお子様などが、キーカバーの端と本体の間に手や指をはさまないようご注意ください。
- ・キーカバーを開けるとき、キーカバーの上に金属や紙片などを置かないでください。本体の内部に落ちて取り出せなくなり、感電、ショート、発火や故障などの原因になります。楽器内部に物が入ってしまった場合は、お買い上げ店、または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご相談ください。

I 譜面立てについて

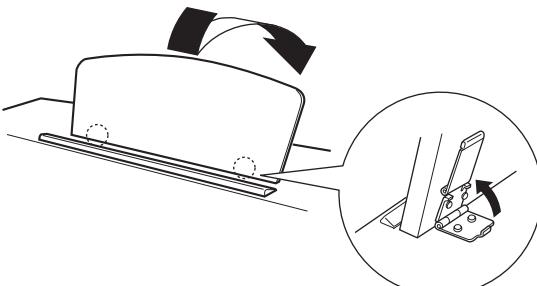
立てるとき

- 1 譜面立てを、止まるまで手前に起こします。
- 2 譜面立て裏にある左右の2つの金具を、下向きに開きます。
- 3 金具が固定される位置まで、譜面立てを戻します。



倒すとき

- 1 譜面立てを、止まるまで手前に起こします。
- 2 譜面立て裏にある左右2つの金具を、上向きに閉じます。
- 3 譜面立てに手を添えて、ゆっくり戻します。



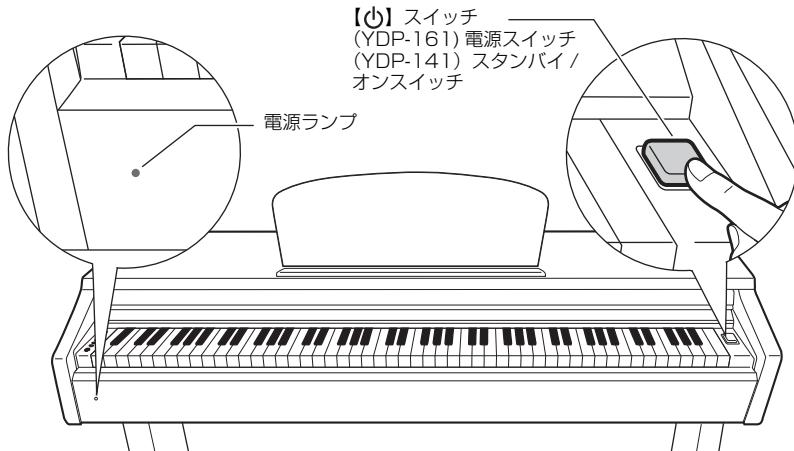
△注意

- ・譜面立ては、金具が固定されない位置で使用または放置しないでください。また、譜面立てを倒すときは、途中で手を離さないでください。

■ 電源を入れる

- 1 本体の【】スイッチが、オフ (YDP-161)/ スタンバイ (YDP-141) になっていることを確認します。
- 2 電源コードが本体に接続されていることを確認します。(35 ページ)
- 3 コンセント側 (家庭用 AC100V) のプラグを差し込みます。
- 4 鍵盤右の【】スイッチを押すと電源が入ります。

この楽器の前面左の電源ランプが点灯します。



電源を切るときは、もう一度【】スイッチを押します。

この楽器前面左の電源ランプが消灯します。

⚠ 警告

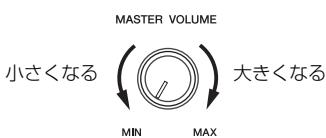
- ・電源は必ず AC100V を使用してください
- ・(YDP-141) 電源アダプターは、必ず指定のもの (37 ページ) をご使用ください。異なった電源アダプターを使用すると故障、発熱などの原因になります。

⚠ 注意

- ・電源を切った状態でも微電流が流れています。この楽器を長時間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

I 音量(ボリューム)調節

鍵盤左の【MASTER VOLUME】つまみで調節します。実際に鍵盤を弾いて音を出しながら、音量を調節してください。



△注意

- ・大きな音量で長時間使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

I ヘッドフォンを使う場合

ヘッドフォンを【PHONES】端子に接続して使います。

【PHONES】端子は2つありますので、ヘッドフォンを2本接続して2人で演奏を楽しむこともできます。

ヘッドフォンを接続すると自動的にスピーカーから音がでなくなります。

△注意

- ・大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

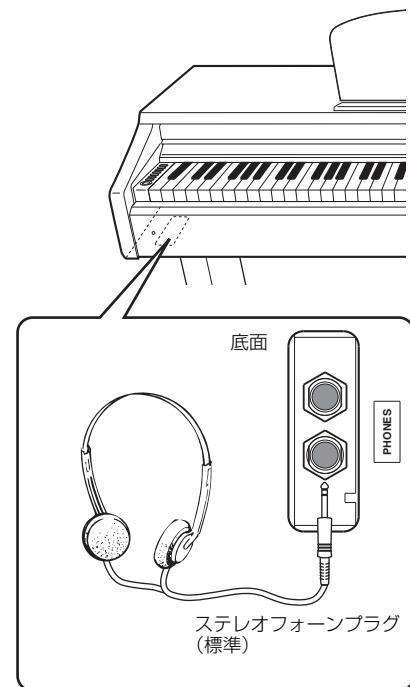
ヘッドフォンハンガー (YDP-161のみ)

YDP-161では、ヘッドフォンハンガーにヘッドフォンをかけることができます。ヘッドフォンハンガーの取り付け方法は、36ページをご参照ください。

YDP-141には、ヘッドフォンハンガーを取り付けることができません。

注記

- ・ヘッドフォンハンガーにヘッドフォン以外のものを掛けないでください。本体またはヘッドフォンハンガーが破損する場合があります。



デモ曲を聞く

この楽器には、音色ごとに1曲ずつデモ曲が入っています。聞いてみましょう。

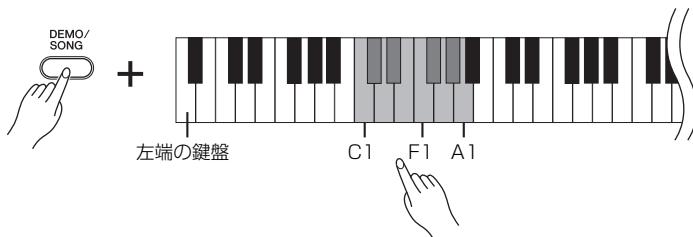
1 [DEMO/SONG] ボタンを押す

【PLAY】ボタンのランプが点灯し、今選ばれている音色のデモ曲がスタートします。デモ曲はストップするまで「別の音色のデモ曲」→「ピアノ50曲（プリセットソング）」→「コンピューターから読み込んだソング（データがある場合）」→「音色のデモ曲」の順で連続して再生されます。

曲の選択

デモ曲の再生中に【+ R】または【- L】ボタンを押すと、他のデモ曲へ切り替えることができます。

デモ曲の中から、1曲を直接選択するには【DEMO/SONG】ボタンを押したままC1～A1（YDP-161）/C1～F1（YDP-141）鍵盤のどれかを押します。



2 [DEMO/SONG] または [PLAY] ボタンを押して、再生をストップする

【PLAY】ボタンのランプが消灯します。

デモ曲

YDP-161		YDP-141		曲名	作曲者
鍵盤	音色名	鍵盤	音色名		
C1	グランドピアノ1	C1	グランドピアノ1	愛の挨拶 op.12	E. エルガー
C#1	グランドピアノ2	C#1	グランドピアノ2	オリジナル	オリジナル
D1	エレクトリックピアノ1	D1	エレクトリックピアノ	オリジナル	オリジナル
D#1	エレクトリックピアノ2			オリジナル	オリジナル
E1	ハープシコード1	D#1	ハープシコード	チェンバロ協奏曲 第7番 BWV.1058	J.S. バッハ
F1	ハープシコード2			フランス組曲 第5番 ジーグ BWV.816	J.S. バッハ
F#1	ピブラフォン			オリジナル	オリジナル
G1	チャーチオルガン1	E1	チャーチオルガン	オルガン小曲集 「神のひとり子なる主 キリスト」 BWV.601	J.S. バッハ
G#1	チャーチオルガン2			トリオ ソナタ 第6番 BWV.530	J.S. バッハ
A1	ストリングス	F1	ストリングス	オリジナル	オリジナル

「オリジナル」は、ヤマハのオリジナル曲です。（©2010 Yamaha Corporation）

「オリジナル」以外のデモ曲は、原曲から編集／抜粋されています。

テンポの調節

テンポの調節は、21ページをご覧ください。

デモ曲は MIDI送信されません。

デモ曲は、片手練習／パート選択（26ページ）できません。

ピアノ 50 曲(プリセットソング)を聞く

この楽器には、音色のデモ曲の他にピアノ 50 曲の演奏データが入っています。これらは鑑賞することもできますし、ご自身で練習することもできます。付属の『ピアノで弾く名曲 50 選』の楽譜集には、ピアノ 50 曲の楽譜が掲載されていますので、ご活用ください。

本

編

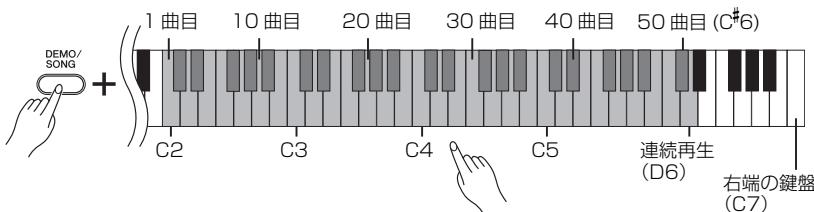
1 付属の「ピアノで弾く名曲 50 選」から、聞きたい曲の番号を調べる

C2 ~ C[#]6 鍵盤（以下参照）には 50 曲が割り当てられています。

2 【DEMO/SONG】ボタンを押したまま C2 ~ C[#]6 鍵盤のどれかを押して、ピアノ曲を選ぶ

【PLAY】【+ R】【- L】のボタンのランプが点灯し、ピアノ曲の再生がスタートします。ピアノ曲は、ストップするまで→「次のピアノ 50 曲（プリセットソング）」→「コンピューターから読み込んだソング（データがある場合）」→「音色のデモ曲」の順で連続して再生されます。

【DEMO/SONG】ボタンを押したまま D6 鍵盤を押すと、ピアノ 50 曲とコンピューターから読み込んだソング（データがある場合）が連続再生されます。



ピアノ曲の再生中に【+ R】または【- L】ボタンを押すと、ピアノ曲を切り替えることができます。

3 【DEMO/SONG】または【PLAY】ボタンを押して、再生をストップする

【PLAY】【+ R】【- L】のボタンのランプが消灯します。

ソングとは

この楽器では、演奏データを総称して「ソング(SONG)」と呼んでいます。デモ曲やピアノ 50 曲も演奏データです。

パート選択

ピアノ 50 曲は、右手パートと左手パートに分かれています。それぞれの再生をオン／オフし、再生をオフしたパートを自分で練習できます。(26 ページ)

再生に合わせて、自分で鍵盤を弾くこともできます。音色も変えられます。

テンポの調節

テンポの調節は、21 ページをご覧ください。

テンポのリセット(再設定)

新しい曲を選ぶと（または、連続再生で新しい曲がスタートすると）テンポは自動的にその曲の固有のテンポにリセットされます。

リバーブは新しい曲を選ぶと（または、連続再生で新しい曲がスタートすると）その曲に合ったリバーブの種類になります。

ピアノ 50 曲は、MIDI 送信されません。

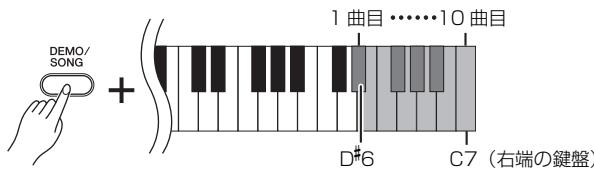
コンピューターから読み込んだソングを聞く

この楽器は、コンピューターからソングデータを10曲読み込むことができます。（コンピューターからソングを読み込む方法は28ページをご参照ください）この楽器に読み込んだソングは次の方法で再生できます。

1 [DEMO/SONG] ボタンを押したまま D[#]6～C7 鍵盤のどれかを押して、再生する曲を選ぶ

D[#]6～C7 鍵盤（以下参照）には読み込まれたソングが割り当てられています。

【PLAY】 [+ R] [- L] のボタンのランプが点灯し、選んだ曲がスタートします。その後、ストップするまで→次の「コンピューターから読み込んだソング（データがある場合）」→「音色のデモ曲」→「ピアノ50曲（プリセットソング）」の順で連続して再生されます。



曲の再生中に [+ R] または [- L] ボタンを押すと、前後の曲へ切り替えることができます。

2 [DEMO/SONG] または【PLAY】ボタンを押して、再生をストップする

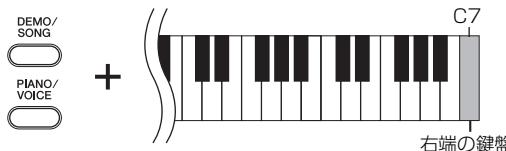
ソング再生チャンネルの選択

コンピューターから読み込んだソングデータで、この楽器にない音色を使用している場合、元の曲が正確に再現されない場合があります。その場合は、以下のようにソング再生チャンネルをオールから1+2に切り替えると、より自然に聞こえることがあります。

ソング再生 1+2 チャンネルの選択

【DEMO/SONG】と【PIANO/VOICE】ボタンを同時に押したまま C7 鍵盤を押します。

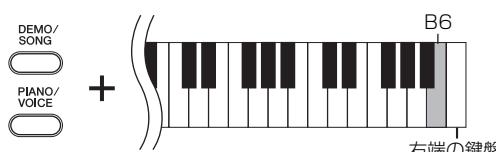
1+2 チャンネルだけが鳴ります。



ソング再生オールチャンネルの選択

【DEMO/SONG】と【PIANO/VOICE】ボタンを同時に押したまま B6 鍵盤を押します。

1～16すべてのチャンネルが鳴ります。



コンピューターから読み込めるソング数は最大10曲です。また全体の容量は845KB（キロバイト）です。

コンピューターからソングを読み込む際、曲番号は自動で付けられます。下の表にコンピューターから読み込んだソングをメモしておくと便利です。

鍵盤	ソング名
D [#] 6	
E6	
F6	
F [#] 6	
G6	
G [#] 6	
A6	
A [#] 6	
B6	
C7	

パート選択

それぞれのパートの再生をオン/オフし、再生をオフしたパートを自分で練習できます。（26ページ）

初期設定

1+2 チャンネル

初期設定とは

本書では、初めて電源を入れたときの設定のことを「初期設定」と呼んでいます。

テンポの調節

テンポの調節は、21ページをご覧ください。

コンピューターから読み込んだソングは、ソング再生チャンネルが1+2のとき3～16チャンネルがMIDI送信されます。

ソング再生チャンネルがオールのときはMIDI送信されません。

音色を楽しむ

I 音色を選ぶ

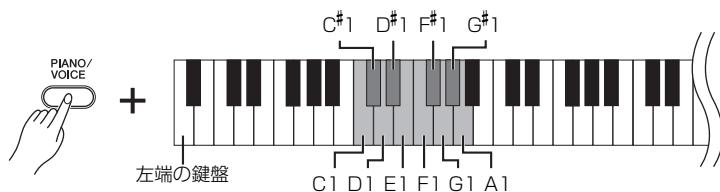
ピアノ/ボイス
グランドピアノ1を選ぶには【PIANO/VOICE】ボタンを1回押します。

ピアノ/ボイス
他の音色を選ぶには【PIANO/VOICE】ボタンを押したあと【+ R】または【- L】ボタンを押します。【+ R】または【- L】ボタンを押すたびに音色が切り替わります。

音色を直接選ぶには、【PIANO/VOICE】ボタンを押したままC1～A1(YDP-161) / C1～F1(YDP-141)鍵盤のどれかを押します。各鍵盤に割り当てられた音色は以下の表をご参照ください。

マスター・ボリューム

【MASTER VOLUME】ボタンで音量を調節しながら演奏してください。



音色の特徴をつかむには

音色ごとのデモ曲を聞いてみてください。(13ページ)

ボイス=音色(楽器音)

音色を選ぶと、その音色に合ったリバーブ(18ページ)が自動的に選ばれます。

YDP-161

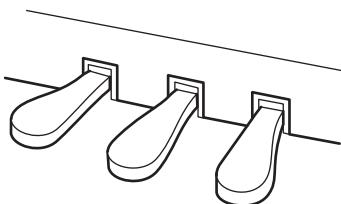
鍵盤	音色名	音色紹介
C1	グランドピアノ1	フルコンサートグランドピアノからサンプリングしました。クラシックはもちろん、どんなジャンルのピアノ曲にも合います。
C#1	グランドピアノ2	明るい響きを持った広がりのあるクリアなピアノの音です。ポピュラー音楽に最適です。
D1	エレクトリックピアノ1	FMシンセサイザーによる電子ピアノの音です。ポピュラー音楽に最適です。
D#1	エレクトリックピアノ2	金属片をハンマーでたたいて発音させる電気ピアノの音です。弱く弾いたときは柔らかく、強く弾くと芯のある音がします。
E1	ハープシコード1	バロック音楽でよく使われる楽器の音です。タッチによる音量変化はありません。
F1	ハープシコード2	オクターブ上の音がミックスされたハープシコードの音です。より華やかさを感じられます。
F#1	ビブラフォン	比較的柔らかなマレットでたたいたビブラフォンの音です。
G1	チャーチオルガン1	パイプオルガンのプリンシバル系(金管楽器系)の混合音栓の音(8フィート+4フィート+2フィート)です。バロック時代の教会音楽の演奏に適しています。
G#1	チャーチオルガン2	バッハの「トッカータとフーガ」で有名なパイプオルガンのフルカッパーの音です。
A1	ストリングス	広がりある弦楽アンサンブルの音です。ピアノとのデュアルに向いています。

YDP-141

鍵盤	音色名	音色紹介
C1	グランドピアノ1	フルコンサートグランドピアノからサンプリングしました。クラシックはもちろん、どんなジャンルのピアノ曲にも合います。
C#1	グランドピアノ2	明るい響きを持った広がりのあるクリアなピアノの音です。ポピュラー音楽に最適です。
D1	エレクトリックピアノ	FMシンセサイザーによる電子ピアノの音です。ポピュラー音楽に最適です。
D#1	ハープシコード	バロック音楽でよく使われる楽器の音です。タッチによる音量変化はありません。
E1	チャーチオルガン	パイプオルガンのプリンシバル系(金管楽器系)の混合音栓の音(8フィート+4フィート+2フィート)です。バロック時代の教会音楽の演奏に適しています。
F1	ストリングス	広がりある弦楽アンサンブルの音です。ピアノとのデュアルに向いています。

■ ペダルを使う

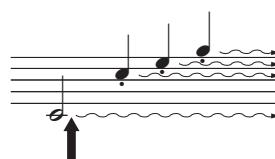
ペダルには、右のペダル（ダンパーペダル）とまん中のペダル（ソステヌートペダル）、左のペダル（ソフトペダル）があります。これらはピアノ演奏で使われます。



右のペダル（ダンパーペダル）

このペダルを踏んでいる間、鍵盤から指を離しても弾いた音を長く響かせることができます。

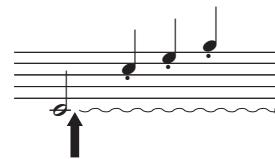
ダンパーペダルはハーフペダル機能に対応しています。



ここでダンパーペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤とその後弾いた音すべてが長く響く

まん中のペダル（ソステヌートペダル）

このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけを、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果はかかりません。



ここでソステヌートペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤の音だけが長く響く

左のペダル（ソフトペダル）

このペダルを踏んでいる間、ペダルを踏んだあとに弾いた音量をわずかに下げ、音の響きを柔らかくできます。（ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音には効果はかかりませんので、効果をかけたい音を弾く直前に踏みます。）



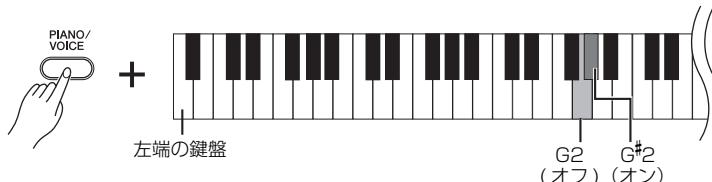
■ ダンパーレゾナンス(YDP-161)

ダンパーレゾナンスがオンの状態でダンパーペダルを踏むと、ダンパーの残響音が付加され、ピアノのダンパーペダルを踏んだときに近い効果が得られます。初期設定ではオンになっています。ダンパーレゾナンスの設定は、楽器全体にかかります。

ダンパーレゾナンスのオン / オフ設定

ピアノ/ボイス
【PIANO/VOICE】ボタンを押したまま、G[#]2 鍵盤を押すと、ダンパーレゾナンスがオンになります。

オフにするときは、【PIANO/VOICE】ボタンを押したまま、G2 鍵盤を押します。



ダンパーペダルが効かない

ペダルコードのプラグがペダル【PEDAL】端子に差し込まれていないと思われます。確実に差し込んでください。(35 ページの手順 6)

本

編

ハーフペダル機能とは

ペダルの踏み加減で音の伸び具合が調節できる機能です。ペダルを踏みこむほど音が長く伸びます。

ペダルを踏んで音が響きすぎたとき、踏み込んだ状態からペダルを少し戻して音の響きを抑える（音の濁りを減らす）ことができます。

オルガンやストリングスの音色では

ソステヌートペダルを踏むと、音が減衰せず、踏んでいる間鳴り続けます。

ペダルは一般的なアコースティックピアノ同様経年変化によって変色することがあります。その際はピアノ用コンパウンドを楽器店などでお買い求めいただき、使用上の注意をよくご確認のうえご使用ください。

初期設定

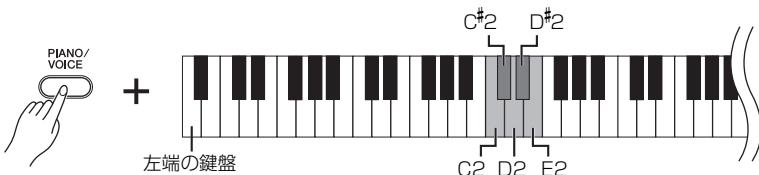
オン

I 音に残響を付ける(リバーブ)

コンサートホールやライブハウスで演奏しているような残響効果をかけることができます。また、その深さ（かかり具合）を変えることもできます。

リバーブの種類の設定

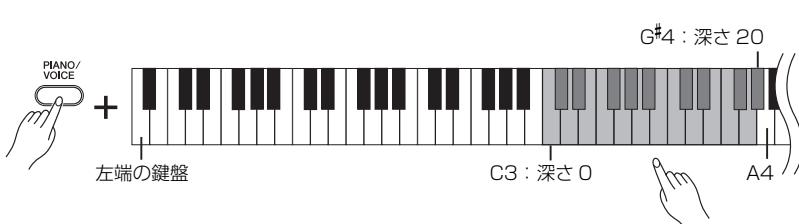
ピアノ/ボイス
【PIANO/VOICE】ボタンを押したまま C2～E2 鍵盤のどれかを押して、リバーブの種類を選びます。



鍵盤	リバーブの種類	説明
C2	ルーム	部屋の中にいるような響きになります。
C#2	ホール 1	小さいコンサートホールにいるような響きになります。
D2	ホール 2	大きいコンサートホールにいるような響きになります。
D#2	ステージ	ステージにいるような響きになります。
E2	オフ	リバーブはかかりません。

深さ（かかり具合）の設定

ピアノ/ボイス
【PIANO/VOICE】ボタンを押したまま C3～G#4 鍵盤のどれかを押して、リバーブの深さを設定します。



右の鍵盤ほどリバーブを深く設定できます。

ピアノ/ボイス
【PIANO/VOICE】ボタンを押したまま A4 鍵盤を押すと、その音色に最適なリバーブの深さになります。

設定範囲

深さ：

0(効果なし)～20(深さ最大)

初期設定

音色ごとにリバーブの種類(オフも含む)や深さが設定されています。

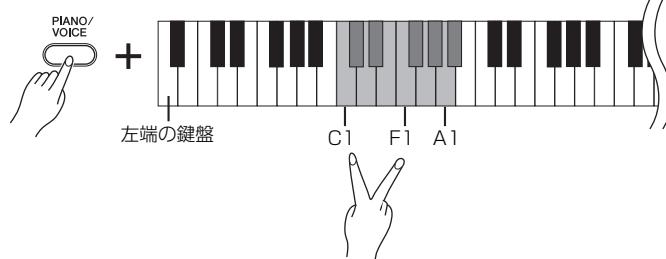
2つの音色を重ねる(デュアル)

2種類の音色を重ねて鳴らすことができます。重ねて鳴らすことにより、厚みのある音を作り出したりできます。

1 デュアルモードに入る

ピアノ/ボイス **[PIANO/VOICE]** ボタンを押したまま、C1～A1 (YDP-161) /C1～F1 (YDP-141) 鍵盤のうち2つの鍵盤を同時に（または、ひとつの鍵盤を押したままもう一方の鍵盤を）押して、重ねて鳴らす2つの音色を選びます。

各鍵盤に割り当てられた音色は、「音色を選ぶ」(16ページ)をご参照ください。



デュアル=2つ

デュアルで同じ音色を設定することはできません。

本

編

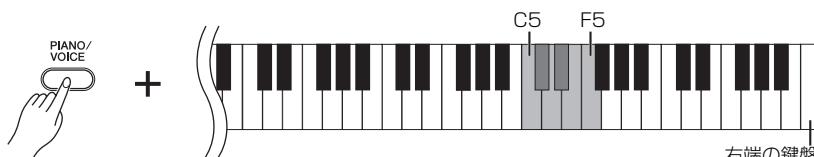
上記の設定で選んだ2つの音色のうち、左側の鍵盤に割り当てられた音色を第1音色、同様に右側の鍵盤に割り当てられた音色が第2音色になります。

第1音色、第2音色はそれぞれ、以下のようにさまざまな設定ができます。

オクターブシフトの設定

音程を1オクターブ上下にシフトさせます。第1音色と第2音色を別々に設定できます。音の響き方が違ってきます。

ピアノ/ボイス **[PIANO/VOICE]** ボタンを押したまま C5～F5 鍵盤のどれかを押します。



第1音色	C5	-1
	C♯5	0
	D5	+1

第2音色	D♯5	-1
	E5	0
	F5	+1

デュアルのときのリバーブ

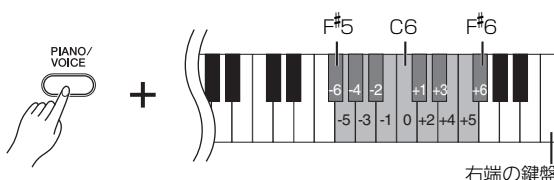
第1音色のリバーブの種類が、優先されます。(第1音色のリバーブがオフのときは、第2音色に設定されているリバーブの種類になります。)

音色の音量バランスの設定

片方の音をメインにしてもう片方の音を薄く重ねるなど、2音色の音量バランスを設定します。

ピアノ/ボイス **[PIANO/VOICE]** ボタンを押したまま F♯5～F♯6 鍵盤のどれかを押します。

設定値が+6に近づくほど第1音色の音量が大きくなります。設定値が0で同音量です。



2 デュアルモードを抜ける

ピアノ/ボイス **[PIANO/VOICE]** ボタンを押すとデュアルモードを抜け、通常の演奏状態にもどります。

I キー(調)を変える(トランスポーズ)

弾く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さに半音単位でキー(調)を合わせることができます。この機能をトランスポーズといいます。

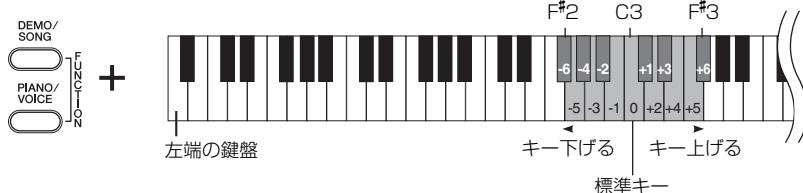
たとえばトランスポーズを「+5」に設定すると、「ド」の鍵盤を弾いたときに「ファ」の音が出ることになり、「ハ長調」の弾きかたで「へ長調」の演奏になります。

本

編

トランスポーズの設定

【DEMO/SONG】と【PIANO/VOICE】ボタンを同時に押したまま $F^{\#}2 \sim F^{\#}3$ 鍵盤のどれかを押してトランスポーズを設定します。



C3 鍵盤を押すと標準の音の高さになります。 $F^{\#}2 \sim B2$ 鍵盤を押すと半音単位でキーが下がり、 $C^{\#}3 \sim F^{\#}3$ 鍵盤を押すと半音単位でキーが上がります。

トランスポーズ: 移調する

移調: 曲全体の音の高さを上げたり下げたりしてキー(調)を変えること。

トランスポーズ量

$F^{\#}2$: -6 半音

C3: 標準の音の高さ

$F^{\#}3$: +6 半音

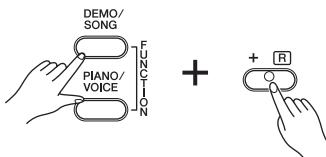
I 音の高さを微調整する(チューニング)

楽器全体の音の高さを微調整する機能です。ほかの楽器や CD の再生音などと音の高さを正確に合わせたい場合に使います。

音の高さの設定

音の高さを上げる(約 0.2Hz 単位)

【DEMO/SONG】と【PIANO/VOICE】ボタンを同時に押したまま 【+ R】 ボタンを押します。

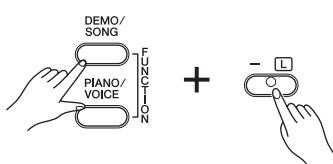


Hz (ヘルツ) とは

音の高さを示す単位です。(音の高さは音波の振動数によって決まります。1 秒間に何回振動するかという数値の単位が Hz です。)

音の高さを下げる(約 0.2Hz 単位)

【DEMO/SONG】と【PIANO/VOICE】ボタンを同時に押したまま 【- L】 ボタンを押します。



設定範囲

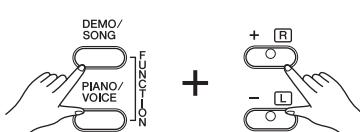
427.0 ~ 453.0Hz

初期設定

440.0Hz

初期設定に戻す

【DEMO/SONG】と【PIANO/VOICE】ボタンを同時に押したまま 【+ R】 と 【- L】 ボタンを同時に押します。



メトロノームを使う

この楽器は、メトロノーム（ピアノの練習でよく使われる正確なテンポを刻む道具）を備えています。ご使用ください。

1 [METRONOME] ボタンを押す

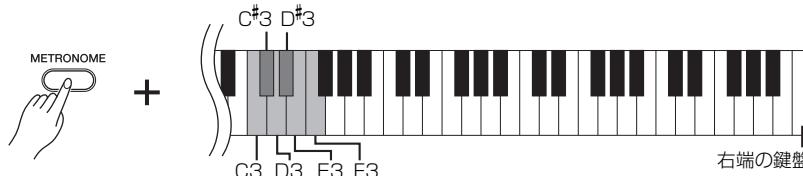
メトロノームが鳴り出します。

拍子の設定

【METRONOME】ボタンを押したまま C3～F3 鍵盤のどれかを押します。

たとえば、3/4 (D3) に設定すると「チーンカチカチ」となります。

初期設定は拍子なし (C3) です。この場合すべての拍で「カチカチ」と鳴ります。



鍵盤	拍子
C3	拍子なし
C#3	2/4
D3	3/4
D#3	4/4
E3	5/4
F3	6/4

テンポの調節

メトロノームやソングを 32～280 (1 分間の拍数) の範囲で設定できます。

テンポを 1 ずつ上げる

メトロノームが鳴っている状態で【+ R】ボタンを押します。

または、【METRONOME】ボタンを押したまま C#5 鍵盤を押します。

テンポを 1 ずつ下げる

メトロノームが鳴っている状態で【- L】ボタンを押します。

または、【METRONOME】ボタンを押したまま B4 鍵盤を押します。

テンポを 10 ずつ上げる

メトロノームが鳴っている状態で【METRONOME】ボタンを押したまま D5 鍵盤を押します。

テンポを 10 ずつ下げる

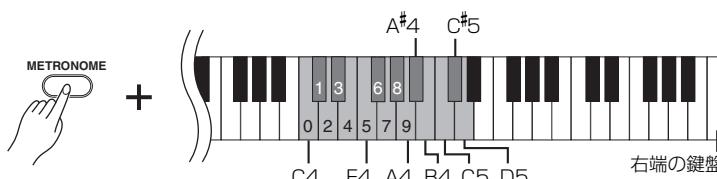
メトロノームが鳴っている状態で【METRONOME】ボタンを押したまま A#4 鍵盤を押します。

テンポを数値入力する

以下の鍵盤にはそれぞれ数字が割り当てられています。

【METRONOME】ボタンを押したまま C4～A4 鍵盤のどれかを押して、3 行の数字を設定します。100 の位から順番に設定します。

たとえば、テンポを 95 に設定したい場合は、【METRONOME】ボタンを押したまま、C4 (0)、A4 (9)、F4 (5) の順番で鍵盤を押します。



テンポを初期設定に戻す

メトロノームが鳴っている状態で【+ R】と【- L】ボタンを同時に押します。

または、【METRONOME】ボタンを押したまま C5 鍵盤を押します。

テンポの初期設定

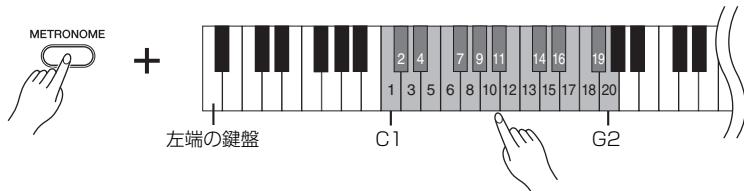
120

メトロノームが鳴っていない状態のときは、【METRONOME】【+ R】【- L】ボタンを同時に押してテンポを初期設定に戻します。

音量の調節

メトロノームの音量を設定します。

【METRONOME】ボタンを押したまま C1 ~ G2 鍵盤のどれかを押して音量を設定します。



右側の鍵盤ほど音量を大きく設定できます。

設定範囲

C1(1) ~ G2(20)

初期設定

G#1(10)

2 [METRONOME] ボタンを押して、メトロノームを止める

■ タッチ感度を設定する

鍵盤を弾く強さを変えたときの、音の強弱の付き方（タッチ感度）を設定します。（鍵盤の重さ自体は変わりません）次の4段階に設定できます。

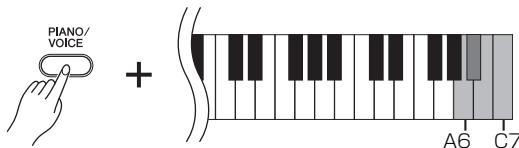
鍵盤	タッチ感度の種類	説明
A6	フィックス	タッチによる音の強弱は付かず、一定の音量が出ます。
A#6	ソフト	軽いタッチで大きい音を出すことができます。比較的音のつぶがそろいやすいタッチです。
B6	ミディアム	標準的なタッチです。
C7	ハード	強いタッチで弾かないと大きい音が出にくい設定です。ピアニッシモからフォルティッシモまで表現豊かな演奏ができます。

オルガンなど一部の音色ではタッチによる音の強弱がつきません。

初期設定

B6(ミディアム)

【PIANO/VOICE】ボタンを押しながら A6 ~ C7 の鍵盤を押してタッチ感度を設定します。



演奏を録音する

この楽器では、録音機能を使って自分の演奏を1曲録音できます。この楽器で録音した曲を「ユーザーソング」と呼びます。演奏は2つのパートに分けて録音できます。たとえば右手パートと左手パートを分けて録音したり、連弾曲を1パートずつ録音して、完成させることができます。

自分の演奏を録音／再生してみましょう。

1 演奏を録音する

1 録音する音色（とそのほかの設定）を選ぶ

音色の選択方法については、16ページの「音色を選ぶ」をご覧ください。

必要に応じてそのほかの設定（リバーブなど）も選んでください。

マスター・ボリューム
【MASTER VOLUME】つまみは弾きやすい音量に設定してください。再生のときにも【MASTER VOLUME】つまみで音量を調整できます。

注記

録音済みのパートを消さないために

すでに録音されているパートのランプは点灯します。このパートに録音すると、それまでの録音データは消えてしまいますのでご注意ください。

デモ曲やピアノ曲などの再生中に、録音モードに入ることはできません。

ユーザーソングは、MIDI送信されません。

演奏記憶容量

この楽器に演奏できる容量は、100KB（およそ11,000音符）です。

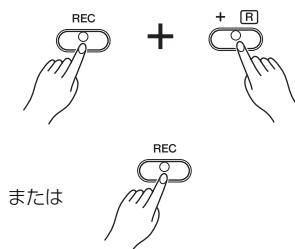
録音の準備に時間がかかることがあります。準備ができたらランプが点滅しますので、それまでお待ちください。

2 パートを選んで録音モードに入る

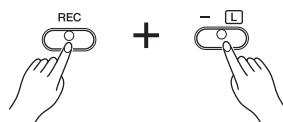
【REC】ボタンを押したまま録音するパートのボタン（【+ R】または【- L】）を押します。

パートを気にせず録音したい場合は、【REC】ボタンを押すだけで録音ができます。この場合、自動的に右手パート（【+ R】）が選択されます。

右手パート（【+ R】）に録音する場合



左手パート（【- L】）に録音する場合



【REC】ボタンと指定したパートのランプが、現在のテンポのタイミングで点滅します。

録音を中止する場合は、もう一度【REC】ボタンを押します。

パート再生のオン／オフ

録音しないパートにデータが入っている場合は、録音スタートと同時に再生が始まります。（データがある場合、そのパートのランプは点灯します。）

録音しないパートの再生をオフしたい場合は、【PLAY】ボタンを押したまま、録音しないパートのボタン（【+ R】または【- L】ボタン）を押します。

パートのランプが消灯し、データが再生されなくなります。

ボタンを押すごとに再生のオン／オフが切り替わります。

3 録音をスタートする

演奏を始めると自動的に録音がスタートします。または、【PLAY】ボタンを押すと録音がスタートします。

録音中は、【REC】ボタンのランプが点灯します。また、録音しているパートのランプが現在のテンポのタイミングで点滅します。(録音しないパートにデータがある場合、そのパートのランプは点灯します。)

4 **【REC】または【PLAY】ボタンを押して、録音をストップする**

録音をストップすると【REC】^{レコード}【PLAY】^{プレイ}【+ R】^{レコード}【- L】^{プレイ}のボタンのランプが点滅し、保存中であること示します。保存が終わると、録音したパートのランプが点灯し、録音モードは自動的に解除されます。

他のパートに録音したい場合は、操作 1 に戻ります。

録音済みのユーザーソングの設定を変えたい場合は

音色や、その他の設定を選び【REC】ボタンと設定を変更したいパートのボタンを押して録音モードに入ります。鍵盤を弾かずに、【REC】ボタンを押して録音を終了します。テンポの変更は、録音モードに入ったあとで行なってください。

パートごとに設定できるデータ

- ・音色
- ・リバーブの深さ
- ・デュアルの音色
- ・ダンパー / ソフトペダルのかかり具合

2つのパートに共通のデータ

- ・テンポ
- ・リバーブの種類

注記

楽器が内部のメモリーにデータを書き込んでいるとき(すべてのボタンのランプが点滅中)は電源を切らないでください。録音中のデータだけでなく、すべての記憶内容が失われる原因になります。

メトロノームを鳴らしながら録音することもできます。ただしメトロノームの音は、録音されません。

録音したユーザーソングは、コンピューターに保存できます。またコンピューターからソングデータを読み込んで再生できます。(28 ページ)

録音したユーザーソングはスタンダードミディファイル(SMF)として保存されます。(28 ページ)

■ 録音した演奏を再生する

1 プレイ [PLAY] ボタンを押す

プレイ [PLAY] ボタンのランプと、録音データのあるパートのランプが点灯し、再生がスタートします。



パートごとに再生したい場合は、26 ページをご覧ください。

ユーザー ソングがないときは、
プレイ [PLAY] ボタンを押しても再生はスタートしません。

2 プレイ [PLAY] ボタンを押して、再生をストップする

ユーザー ソングの再生が終了すると、自動的に再生前の状態に戻ります。

再生途中にストップする場合は、プレイ [PLAY] ボタンを押します。

本

編

■ 録音した演奏を消去する

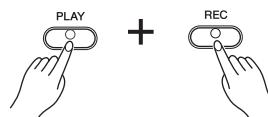
録音済みのユーザー ソングを 1 曲すべて ([+ R] と [- L] パート) 消去します。

1 レコード [REC] ボタンを押して録音モードに入る

レコード [REC] と [+ R] ボタンのランプが現在のテンポのタイミングで点滅します。

[- L] パートにデータがある場合は、[- L] ボタンのランプが点灯します。

2 プレイ [PLAY] ボタンを押したまま レコード [REC] ボタンを押して、消去モードに入る



レコード [REC] プレイ [PLAY] [+ R] [- L] のボタンのランプが点滅します。

ユーザー ソングの消去を中止する場合は、点滅している レコード [REC] プレイ [PLAY] [+ R] [- L] のボタン以外のボタンを押します。

3 レコード プレイ [REC] [PLAY] [+ R] [- L] ボタンのいずれかを押し、データを消去する

レコード [+ R] [- L] レコード [REC] プレイ [PLAY] ボタンのランプが、上から下へと順に点灯します。データの消去が終わると、すべてのボタンのランプが消灯します。

パートのデータを削除する

レコード [REC] ボタンを押したまま消去するパートのボタン ([+ R] または [- L] ボタン) を押します。

プレイ [PLAY] ボタンを押して録音をスタートさせ、何もせずに レコード [REC] または プレイ [PLAY] ボタンで録音をストップすると、そのパートのデータが削除され、パートのランプが消灯します。

パートを指定して、演奏を聞いてみる / 片手練習する

次のソングは、パート（またはチャンネル）ごとに再生のオン / オフを設定できます。それぞれの再生をオン / オフし、再生をオフにしたパートをご自分で練習できます。

・ピアノ50曲（プリセットソング）（14ページ）

右手パートが【+ R】に、左手パートが【- L】に録音されています。パートごとにオン / オフを切り替えて再生できます。

音色デモ曲（13ページ）は、パート選択できません。

・コンピューターから読み込んだソング（15ページ）

1 チャンネルが【+ R】に、2 チャンネルが【- L】に録音されています。チャンネルごとにオン / オフを切り替えて再生できます。

・楽器本体に録音したユーザーソング（23ページ）

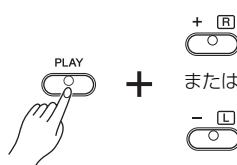
この楽器で録音した曲です。録音したパートごとにオン / オフを切り替えて再生できます。

1 練習したいソングを再生する

ソングの再生方法は、上記ページをご参照ください。

2 パートの再生をオフにする

ソング再生中、【PLAY】ボタンを押したまま、再生をオフするパートのボタン（【+ R】または【- L】ボタン）を押します。



選択したパートの音がオフされ、押したボタンのランプが消灯します。

押すごとに再生のオン / オフが切り替わります。

3 再生をストップする

再生途中にストップする場合は、【PLAY】ボタンを押します。

曲の再生が終了したり、再生をストップすると、パート再生のオン / オフは解除されます。

パートやチャンネルを選択できるソングは、ソングの再生中に【+ R】【- L】のボタン（片方または両方）が点灯します。

パートの選択は、ソング再生中のみ可能です。

パート再生のリセット

新しい曲を選ぶと（または、連続再生で新しい曲がスタートする）パートやチャンネルのオン / オフ設定は解除されます。

MIDI 機器の接続

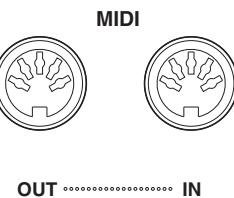
この楽器には MIDI 端子がついています。MIDI 機能を使ってほかの楽器やコンピューターとデータを送受信することにより音楽の幅を広げることができます。

■ MIDIって何？

MIDI (Musical Instrument Digital Interface) は、電子楽器間で演奏情報のやりとりができる世界共通の規格です。

MIDI 端子のある電子楽器同士を MIDI ケーブル（別売）でつなげることで、違う楽器間でいろいろな演奏の情報や設定の情報を送受信できます。

1 つの楽器で演奏するよりも高度な演奏も可能になります。



MIDI で送受信できるデータの内容は MIDI 機器によって異なります。この楽器で送受信できる内容については、ウェブ上のデータリスト「MIDI インプリメンテーションチャート」をご参照ください。

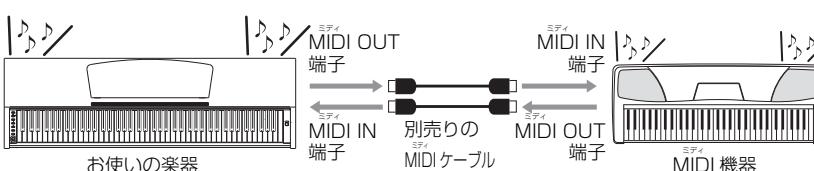
(アクセス方法は 6 ページをご参照ください)

MIDI ケーブルは、楽器店などでお買い求めください。

■ MIDI でできること

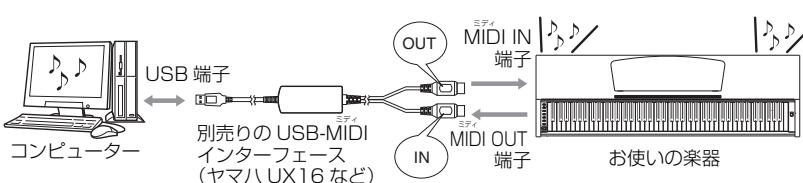
MIDI 機能を使えば、他の MIDI 機器との演奏情報のやりとりや、コンピューターからのソングデータの読み込み、コンピューターへのユーザーソングデータの送信などができます。

他の MIDI 機器と接続して演奏情報を送受信する



この楽器から音色デモ、ピアノ 50 曲、ユーザーソングのソングデータは送信できません。

コンピューターと接続して MIDI データを送受信する



ソングデータの送受信についての詳細は、「コンピューターと楽器間でソングデータを送受信する」(28 ページ)をご覧ください。

I コンピューターと接続する

コンピューターをこの楽器の MIDI 端子につなげば、コンピューターとの間で MIDI データを送受信できるようになります。この場合、コンピューター側にアプリケーションソフトが必要です。

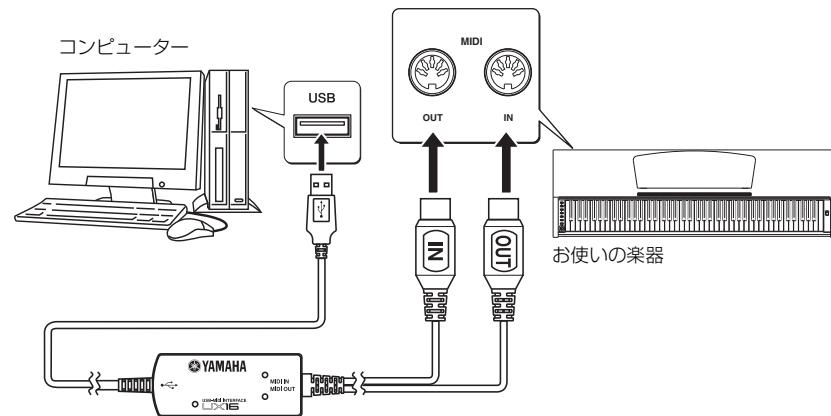
また、ミュージックソフトダウンローダーをコンピューターにインストールすると、楽器とコンピューター間でソングデータを送受信できます。(次の項目参照)

コンピューターの USB 端子と楽器を接続する方法

コンピューターの USB 端子とこの楽器の MIDI 端子を、別売の USB-MIDI インターフェース (ヤマハ UX16 など) を使用して接続します。

この楽器をコンピューターで使用するには、コンピューターに USB-MIDI ドライバーを正しくインストールする必要があります。USB-MIDI ドライバーは、シーケンスソフトなどから USB ケーブルを通じて楽器に MIDI 信号を送信したり、逆に楽器からシーケンスソフトなどに MIDI 信号を送信するためのソフトウェアです。

詳しくは、USB インターフェース機器に付属の取扱説明書をご参照ください。



コンピューターと接続する場合は、最初に、この楽器とコンピューターの電源を切った状態でケーブル接続を行ない、その後コンピューター→楽器の順番で、電源を入れてください。

この楽器を音源として使う場合、この楽器にない音色が使われている演奏データは、正しく再生されません。

I コンピューターと楽器間でソングデータを送受信する

この楽器にはデモソングやピアノ 50 曲を内蔵していますが、そのほかにコンピューターからソングデータを読み込んで演奏することもできます。また、楽器内のユーザーソングをコンピューターに保存したり、コンピューターに保存したユーザーソングをもう一度楽器に読み込んで演奏することもできます。

ソングデータの送受信を行なうには、下記 URL からミュージックソフトダウンローダーをダウンロード (無料) し、ご使用のコンピューターにインストールする必要があります。

<http://www.yamaha.co.jp/download/msd/>

ミュージックソフトダウンローダーを使用するために必要なコンピューターシステムは、上記 URL でご確認ください。

データの送受信の方法は、ミュージックダウンローダーについているヘルプ「コンピューターと電子楽器の間でデータを転送する」をご参照ください。

SMF(スタンダード MIDI ファイル)

代表的なシーケンスフォーマット(演奏データを記録する形式)の一つです。「MIDI ファイル」と呼ばれることもあります。ファイルの拡張子は .MID です。SMF フォーマットでセーブされた曲(ソング)データは、SMF 対応の音楽ソフトやシーケンサーで手軽に再生できます。この楽器も SMF に対応しています。

コンピューターから楽器に読み込める内容

- ・ソング：最大 10 曲 + ユーザーソング
- ・データ量：合計で 845KB + 100KB (キロバイト)
- ・データフォーマット：SMF Format 0&1
- ・バックアップデータ：10YDP.BUP (楽器から読み込んだデータ)

コンピューターから読み込んだソングを聞く方法は 15 ページをご参照ください。また、ユーザーソングを聞く方法は 25 ページをご参照ください。

注記

- データ通信中は電源を切ったり、電源プラグを抜き差ししないでください。通信中のデータが保存されないだけではなく、フラッシュメモリーの動作が不安定になり、メモリー内容が電源入 / 切時にすべて消える可能性があります。

楽器からコンピューターへ送信できる内容

- ・ユーザーソング：USERSONG1.MID
- ・バックアップデータ：10YDP.BUP
- ・コンピューターから読み込んだソング

ミュージックソフトダウンローダーの動作中、本体の【REC】と【PLAY】ボタンのランプが点灯します。

楽器の操作をするためには、ミュージックソフトダウンローダーの画面を閉じて終了させる必要があります。

ミュージックソフトダウンローダーで読み込むことのできるファイル名は、英数字のファイル名に限ります。

ユーザーソングのファイル名「USERSONG1.MID」を変更すると、変更したファイルはユーザーソングとしてこの楽器で認識できなくなります。

本編

編

■ バックアップデータと初期化(イニシャライズ)の方法

フラッシュメモリーへのデータバックアップ

下記の項目は楽器のフラッシュメモリーに保存されます。これらは電源を切っても記憶されています。

バックアップデータ
メトロノームの音量
メトロノームの拍子
タッチ感度
チューニング
自分で録音したソング (ユーザーソング) データ
コンピューターから読み込んだソングデータ

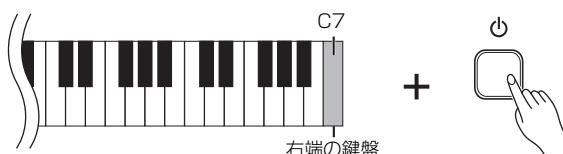
メトロノームの音量 / 拍子、タッチ感度、チューニングのバックアップデータは「10YDP.BUP」というファイル名で保存されます。このバックアップデータをコンピューターとの間で送受信できます。

初期化 (イニシャライズ) の方法

この操作をすると、コンピューターから読み込んだソング以外のデータが初期化 (工場出荷時の状態になります) されます。

右端の鍵盤 (C7) を押しながら電源を入れます。

コンピューターから読み込んだソング以外のデータが初期化されます。



この楽器が、何らかの原因で操作不能になったり、誤動作した場合は、一旦電源を切り、初期化を行なってください。

注記

- 初期化実行中 (【REC】と【PLAY】ボタンのランプ点滅中) は電源を切らないでください。
- 初期化を行なうと、自分で録音した曲 (ユーザーソング) は消去されますのでご注意ください。

MIDIに関する設定をする

ミディ MIDIに関する各種設定や操作を行ないます。

I MIDI送信/受信チャンネルの設定

ミディ MIDI楽器どうしで、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側で MIDIチャンネル (1~16チャンネル) を合わせておく必要があります。ここでこの楽器から MIDIデータを送受信するときのチャンネルを設定します。

本

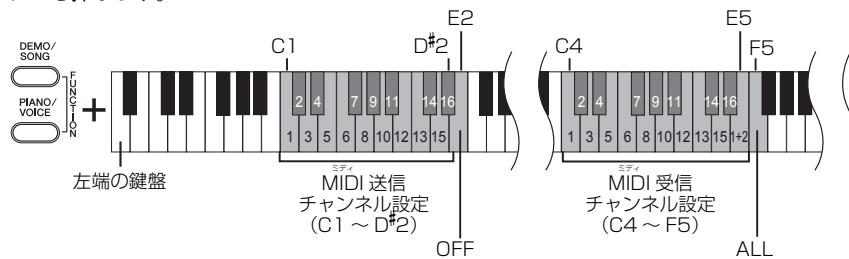
編

MIDI送信チャンネルの設定

デモ/ソング ピアノ/ボイス
【DEMO/SONG】と【PIANO/VOICE】ボタンを同時に押したまま C1~E2 鍵盤のどれかを押します。

MIDI受信チャンネルの設定

デモ/ソング ピアノ/ボイス
【DEMO/SONG】と【PIANO/VOICE】ボタンを同時に押したまま C4~F5 鍵盤のどれかを押します。



デュアルのときの第2音色はここで設定したチャンネルの次のチャンネルで送信されます。(第1音色は、ここで設定したチャンネルで送信されます。)ただし、上記設定チャンネルを OFF に設定した場合は送信されません。

本体のパネル設定や手弾き音は、送信されてくるプログラムエンジ(音色切り替え)などのチャンネルメッセージから影響を受けません。

デモ曲、ピアノ50曲(プリセットソング)、ユーザーソングの再生データは MIDI送信されません。

MIDI受信チャンネルが「ALL」の場合

「マルチティンバー」と呼ばれる仕様になっており、外部 MIDI機器から送信される複数のチャンネルのデータを、同時に受信します。複数のチャンネルを使って作られた演奏データを、この楽器で受信して再生させることができます。

MIDI受信チャンネルが「1+2」の場合

シーケンサーなどの外部 MIDI機器から受信するデータのうち1、2チャンネルのデータだけを受信し、この楽器本体で再生できます。

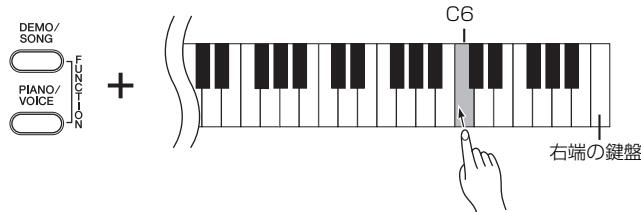
I ローカルコントロールオン/オフの設定

通常、この楽器の鍵盤を弾くと本体内部の「音源」から音が出ます。この状態は「ローカルコントロールオン」と呼ばれます。「ローカルコントロールをオフ」にすると、「鍵盤」と「音源」が切り離され、鍵盤を弾いてもこの楽器からは音が出てなります。一方、鍵盤を弾いた演奏データは MIDI送信されますので、この楽器の音を鳴らさずに

ミディ MIDI接続した外部の音源を鳴らしたいときなどに、ローカルコントロールをオフにします。

デモ/ソング ピアノ/ボイス
【DEMO/SONG】と【PIANO/VOICE】ボタンを同時に押したまま C6 鍵盤を押します。

C6 鍵盤を押すたびにローカルコントロールオン/オフが設定されます。



ローカルをオフにすると楽器本体から音が出なくなります。

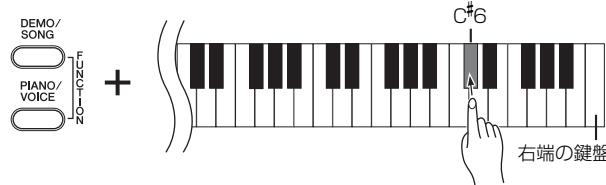
■ プログラムチェンジ送受信オン／オフの設定

MIDI で送信側の機器から受信側の機器の音色を切り替える情報をプログラムチェンジと言います。たとえばこの楽器からプログラムチェンジを送信すると MIDI 接続した外部機器の音色を切り替えることができます。(この楽器のパネル上で音色を切り替えたときに、切り替えた音色のプログラムチェンジナンバーが送信されます。) 逆に MIDI 接続した外部機器から送信されたプログラムチェンジをこの楽器が受信すると、同時に受信している MIDI の演奏データの音色が切り替わります。(このとき鍵盤での手弾き音色は切り替わりません。)

このプログラムチェンジの送受信をする場合 (MIDI 接続した外部機器と音色切り替えを連動させたい場合) はオンに、送受信をしない場合 (MIDI 接続した外部機器と音色切り替えを連動させたくない場合) はオフにします。

【DEMO/SONG】と【PIANO/VOICE】ボタンを同時に押したまま C[#]6 鍵盤を押します。

C[#]6 鍵盤を押すたびにプログラムチェンジ送受信オン／オフが設定されます。



各音色のプログラムチェンジナンバーについては、ウェブ上のデータリスト「MIDI データフォーマット」をご参照ください。(アクセス方法は 6 ページをご参照ください。)

■ コントロールチェンジ送受信オン／オフの設定

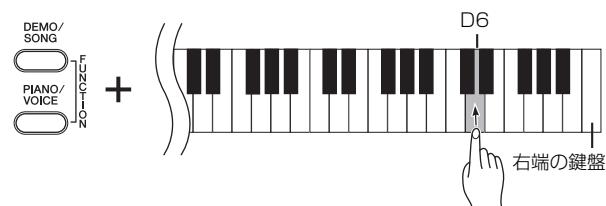
コントロールチェンジデータとは、MIDI データのうち演奏表現など (たとえば、ダンパーペダルの情報) に関するデータのことです。

この楽器からコントロールチェンジを送信すると MIDI 接続した外部機器の演奏をコントロールできます。(この楽器でダンパーペダルを操作をしたときなどにコントロールチェンジが送信されます。) 逆に MIDI 接続した外部機器から送信されたコントロールチェンジをこの楽器が受信すると、同時に受信している MIDI の演奏データがそれに反応します。(このとき鍵盤での手弾き音は影響を受けません。)

このコントロールチェンジの送受信をする場合はオンに、送受信をしない場合はオフにします。

【DEMO/SONG】と【PIANO/VOICE】ボタンを同時に押したまま D6 鍵盤を押します。

D6 鍵盤を押すたびにコントロールチェンジ送受信オン／オフが設定されます。



この楽器で扱えるコントロールチェンジ情報については、ウェブ上のデータリスト「MIDI データフォーマット」をご参照ください。(アクセス方法は 6 ページをご参照ください。)

困ったときは

本

編

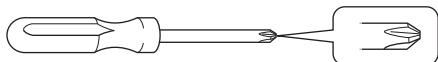
現象	考えられる原因	解決法
本体の電源が入らない。	電源プラグが差し込まれていません（本体側と家庭用コンセント側）。	電源プラグを本体と家庭用（AC100V）コンセントに、確実に差し込んでください。（35 ページ）
本体から雑音が出る。	本体の近くで携帯電話を使っています（または呼び出し音が鳴っています）。	本体の近くでは、携帯電話の電源を切ってください。本体の近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。
全体的に音が小さい。 まったく音が出ない。	【MASTER VOLUME】つまみが下がっています（MIN 側になっています）。	【MASTER VOLUME】つまみを上げてください。（12 ページ）
	ヘッドフォンを接続しています。	ヘッドフォンのプラグを抜いてください。（12 ページ）
	ローカルコントロールがオフになっています。	ローカルコントロールをオンにしてください。（30 ページ）
ペダルが効かない。	ペダルコードのプラグが【PEDAL】端子にしっかりと差し込まれていません。	本体の電源を切った状態で、ペダルコードのプラグを【PEDAL】端子に確実に差し込んでください。その際、プラグの金属部分が見えなくなるまで、しっかりと差し込んでください（35 ページ）。
特定の音域でピアノ音色の音の高さ、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本来の音ができる限り忠実に再現しようとしております。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音の高さや音域が異質に感じる場合があります。	異常ではありません。
鍵盤を弾くと、機構音がカタカタ鳴る。	この楽器の鍵盤機構は、ピアノの鍵盤機構をシミュレートして設計されています。ピアノの場合でも機構音は実際に出ているものです。	異常ではありません。
ペダルの効きが悪い。	ダンパーペダルを踏んだまま、電源を入れたためです。	故障ではありません。ダンパーペダルを踏みなおすと機能が回復します。

YDP-161/141 の組み立て方

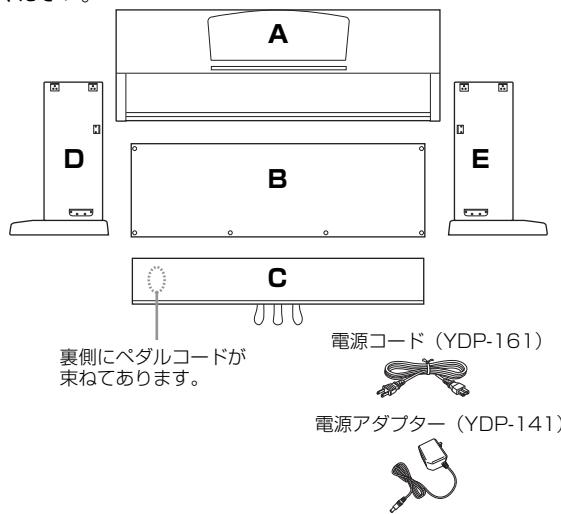
△注意

- 部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- 組み立ては、必ず2人以上で行なってください。
- 硬くて平らな場所で組み立ててください。
- 付属のネジ以外のネジ、または指定されたサイズ以外のネジは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因になることがあります。
- ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないようきつく締め直してください。
- 分解するときは、組み立てと逆の手順で行なってください。

ネジのサイズに合ったプラス(+)のドライバーを用意してください。



すべての部品を取り出し、部品がそろっているか確かめてください。



ネジセット

長いネジ (6×20mm) : 4本



先のとがったネジ
(4×20mm) : 4本



短いネジ (6×16mm) : 4本



コードホルダー : 2個



細いネジ (4×12mm) : 2本

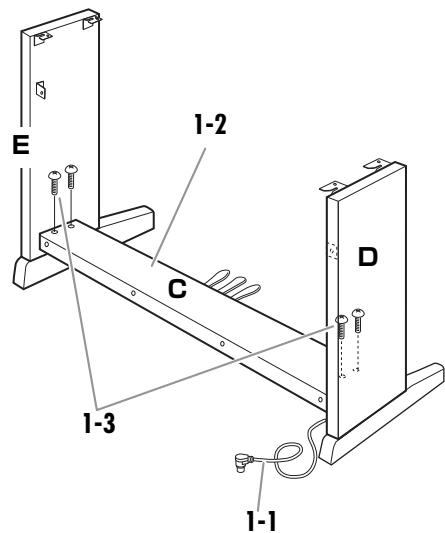


ヘッドフォンハンガーセット (YDP-161のみ)

細いネジ (4×10mm) : 2本 ヘッドフォンハンガー

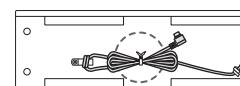


I 口とEにCを仮留めする。



I-1 ペダルコードをほどきます。

外したビニールひもは、手順6で使用します。



I-2 Cの両端にDとEを合わせて置きます。

I-3 長いネジ (6×20mm) で仮留めします。

2 B を固定する。

モデルによっては、B の裏表で色が違う場合があります。

この場合は、演奏者側から見たときに B の色と D、E の色が同じになる向きで、B を取り付けます。

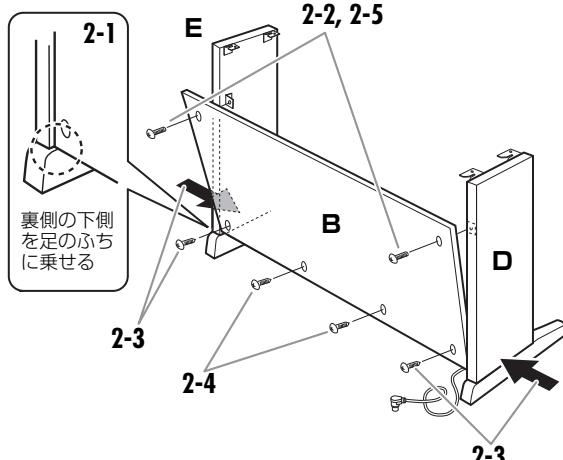
2-1 B の下側を足のふちにのせてから、上側をはめます。

2-2 上側を、細いネジ (4×12mm) で仮留めします。

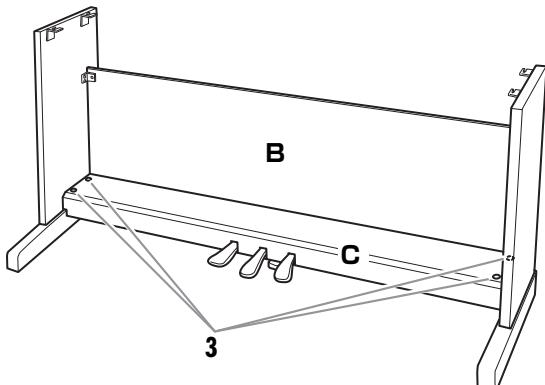
2-3 D と E の下部を左右から押しながら、下側の左右を、先のとがったネジ (4×20mm) で固定します。

2-4 下側の残り 2カ所を先のとがったネジ (4×20mm) で固定します。

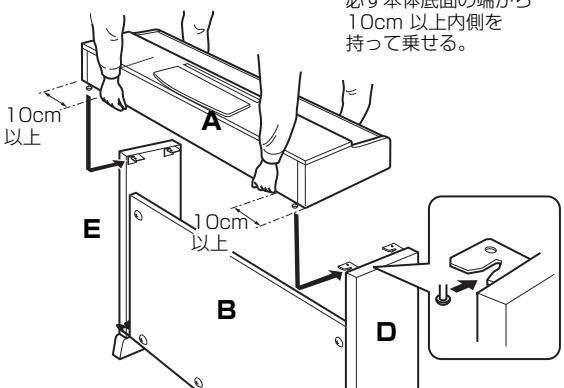
2-5 仮留めした上側のネジ (手順 2-2) をきつく締め直します。

**3 C を締め直す。**

C を仮留めしたネジ (手順 1-3) をきつく締め直します。

**4 A を乗せる。**

必ず本体底面の端から 10cm 以上内側を持って乗せる。



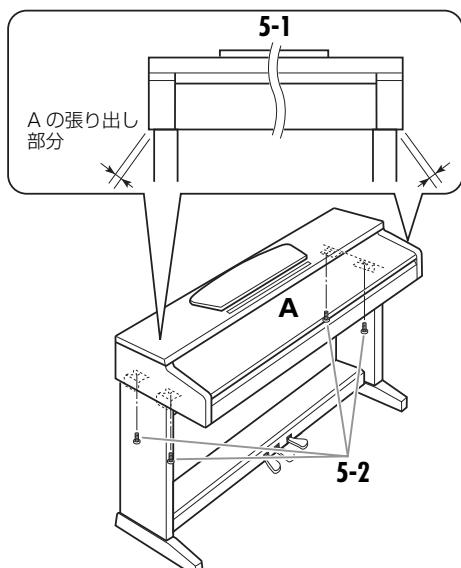
⚠ 注意

- ・指をはさんだり、本体を落としたりしないよう、十分ご注意ください。
- ・指定した位置以外を持たないでください。

5 A を固定する。

5-1 前面から見て、A の張り出し部分が左右均等になるように調整します。

5-2 前面から、短いネジ (6×16mm) で固定します。



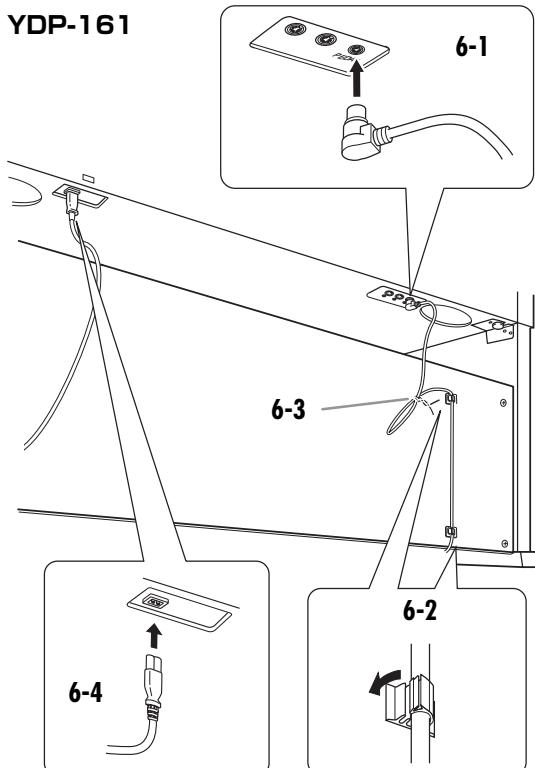
6 ペダルコードと電源コード (YDP-161) / 電源アダプター (YDP-141) を接続する。

- 6-1 ペダルコードのプラグを背面からペダル端子に差し込みます。
- 6-2 コードホルダーを貼り付け、ペダルコードを固定します。
- 6-3 ペダルコードを、ビニールひもで束ねます。
- 6-4 (YDP-161) 電源コードのプラグを背面から差し込みます。
(YDP-141) 電源アダプターの DC プラグを差し込み、コードが抜け落ちないようコードフックに巻きかけて固定します。

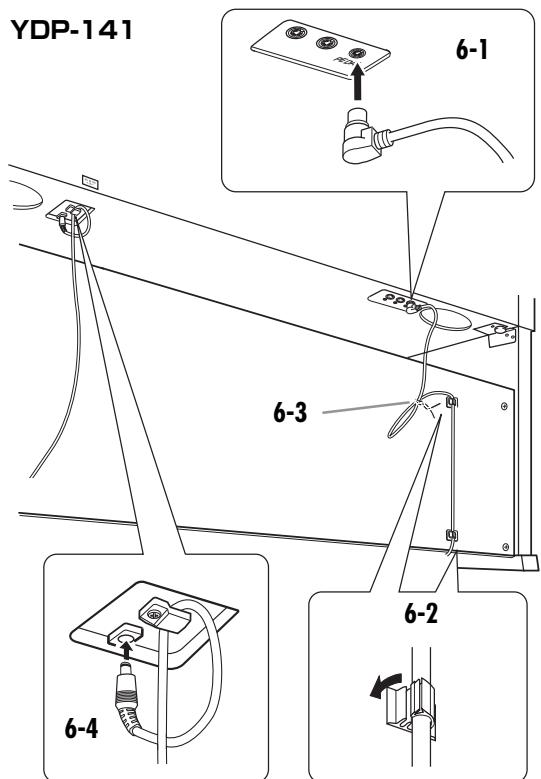
△注意

- ・コードフックに巻きつける際、電源アダプターのコードを極端に折り曲げないでください。
コードの断線や発火の原因となります。

YDP-161

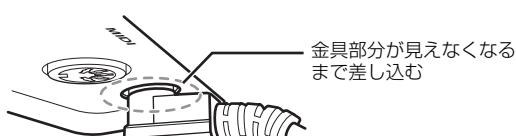


YDP-141



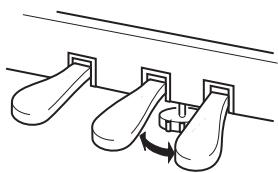
■ペダルケーブルを接続するときは

プラグの金具部分が見えなくなるまでしっかり差し込んでください。しっかり差し込まれていない場合、ペダルが機能しない原因になります。

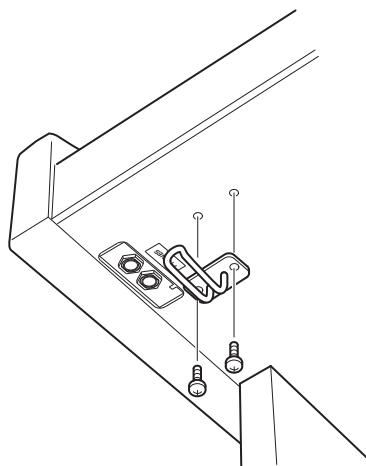


7 アジャスターを回す。

アジャスターを回して、床にぴったりつける。

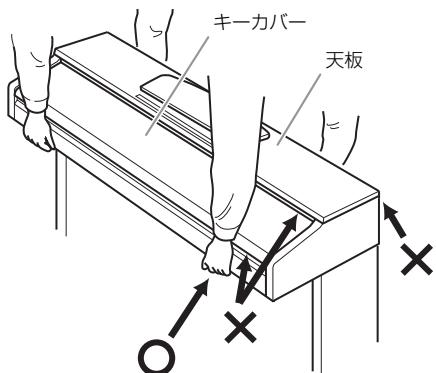
**8 ヘッドフォンハンガーを固定する。(YDP-161のみ)**

付属のネジ (4×10mm) 2本で、図のように取り付ける。

**■組み立て後、必ず以下の点をチェックしてください。**

- ・ 部品が余っていませんか？
→組み立て手順を再確認してください。
- ・ 部屋のドアなどがこの楽器にあたりませんか？
→この楽器を移動してください。
- ・ この楽器がぐらぐらしませんか？
→ネジを確実に締めてください。
- ・ ペダルを踏むと、ペダルボックスがガタガタしませんか？
→アジャスターを回して床にぴったりつけてください。
- ・ ペダルコード、電源コードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか？
→確認してください。
- ・ 使用中に本体がきしむ、横ゆれする、ぐらぐらするなどの症状がでたら、組み立て図に従って各部のネジを締め直してください。

組み立て後、本体を移動するときは、必ず本体の底面を持ってください。

**△注意**

天板やキーカバーを持たないでください。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。

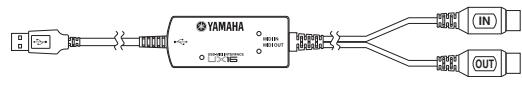
別売品のご紹介

ヘッドフォン HPE-150



USB-MIDI インターフェース UX16

コンピューターの USB 端子と MIDI 機器を接続できる
USB-MIDI インターフェースです。



仕様

製品名		YDP-161	YDP-141
サイズ / 重量	幅	1357mm	
	高さ () 内は譜面立てを立てた場合	815mm (969mm)	
	奥行き	422mm	
	質量	42kg	37kg
操作子	鍵盤	鍵盤数	88
		鍵盤種	グレードハンマー (GHS) 鍵盤
		タッチ感度	ハード / ミディアム / ソフト / フィックス
	ペダル	ペダル数	3
		ハーフペダル	○
		ペダル機能	ダンパー、ソステナート、ソフト
	パネル	言語	英語
	本体	鍵盤蓋	スライド式キーカバー
音源 / 音色	音源	音源方式	AWM ダイナミックステレオサンプリング
		ダイナミック ステレオサンプリング	3
	発音数	最大同時発音数	128
	プリセット	音色数	10
効果	タイプ	リバーブ	○
		ダンパーレゾナンス	○
	鍵盤パート	デュアル	○
	ソング	内蔵曲数	音色デモ曲 10 曲、ピアノ曲 50 曲
録音再生	録音	録音曲数	1
		録音トラック数	2
	データ容量	1 曲 100KB (約 11,000 音符)	
	フォーマット	再生フォーマット	スタンダード MIDI ファイル (SMF) Format 0&1
ファンクション	形式	録音フォーマット	スタンダード MIDI ファイル (SMF) Format 0
		全体設定	メトロノーム
		テンポ	32 ~ 280
		トランスポーズ	- 6 ~ 0 ~ + 6
	メモリー	内蔵メモリー	チューニング
接続端子	ユーザーソング用 : 100KB (1 曲)、外部ソング用 : 最大容量合計 845KB (最大 10 曲)		
	ヘッドフォン	2	
	MIDI	IN/OUT	
アンプ / スピーカー	アンプ出力	20W × 2	6W × 2
	スピーカー	楕円 (12cmx6cm) × 2	
定格電源		AC100V、50/60Hz	
消費電力		40W	15W
付属品		保証書、取扱説明書 (本書)、ピアノで弾く名曲 50 選 (楽譜集)、 クリックオペレーションガイド、ヘッドフォン、イス、ユーザー登録のご案内	
		電源コード	電源アダプター (PA-150A またはヤマハ推奨の同等品)

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

付

録

索引

数字・ABC順

2つの音色を重ねる	19
AC IN	9
DC IN	9
DEMO/SONG	9,13,14,15
FUNCTION	9
MASTER VOLUME	9,12
METRONOME	9,21
MIDI	27
MIDI IN/OUT	9
MIDI 送信 / 受信チャンネルの設定	30
MIDI インプリメンテーションチャート	
→データリスト	6
MIDI データフォーマット	
→データリスト	6
Musicsoft Downloader (MSD)	
→ミュージックソフトダウンローダー	28
PEDAL	9
PHONES	9,12
PIANO/VOICE	9,16
PLAY	9,24
REC	9,23
SMF (スタンダード MIDI ファイル)	28
あいうえお順	
あ	
アフターサービス	
→保証とアフターサービス	39
安全上のご注意	2
イニシャライズ	29
音に残響を付ける	18
音の高さの微調整	20
音色	16
音量 (ボリューム) 調節	23,12
か	
楽譜立て	
→譜面立て	10
キー (調) を変える	20
キーカバー	10
組み立て方	33
鍵盤蓋	
→キーカバー	10
困ったときは	32
コントロールチェンジ送受信オン / オフの設定	31
コンピューターと接続する	28
さ	
仕様	37
初期化	29
スタンダード MIDI ファイル	28
ソステナートペダル	17
ソフトペダル	17
ソング再生チャンネル	15
ソングデータを送受信する	28
ソングの消去	25

た

タッチ感度の設定	22
ダンパーペダル	17
ダンパーレゾナンス	17
チューニング	20
調律について	8
データリスト	6
デモ演奏	
→デモ曲	13
デモ曲	13
デュアル	
→2つの音色を重ねる	19
電源を入れる	11
テンポ	21
トランスポーズ	
→キー (調) を変える	20

は

ハーフペダル	17
バックアップデータ	29
ピアノ 50 曲	14
引っ越しの際は	8
拍子設定 (メトロノーム)	21
付属品	8
蓋	
→キーカバー	10
2つの音色を重ねる	19
譜面立て	10
プリセットソング	
→ピアノ 50 曲	14
プログラムチェンジ送受信オン / オフの設定	31
ペダル	9,17,35
別売品	37
ヘッドフォン	12
ヘッドフォンハンガー	12
ボイス (VOICE)	
→音色	16
保証とアフターサービス	39
ボリューム調節	
→音量調節	12

ま

マスター ボリューム	
→音量調節	12
ミュージックソフトダウンローダー	28
メトロノーム	21

や

ユーザーソング	23
---------	----

ら

リバーブ	
→音に残響を付ける	18
ローカルコントロールオン / オフの設定	30
録音	23

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

●保証書

本機には保証書がついています。

保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

●保証期間

お買い上げ日から本体は1年間、ヘッドフォンは6ヵ月です。

●保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

下記の部品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

消耗部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点など

●補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

●修理のご依頼

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センターへ修理をお申し付けください。

●製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

■修理に関するお問い合わせ

◆ヤマハ修理ご相談センター

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～18:00
土曜日 9:00～17:00
(祝祭日および弊社休業日を除く)



0570-012-808

ナビゲイアル[®] ※ 一般電話・公衆電話からは、市内通話料金をご利用いただけます。
携帯電話、PHS、IP電話からは TEL053-460-4830

FAX (053)463-1127

◆修理品お持込み窓口

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～17:45
(祝祭日および弊社休業日を除く)

・お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

北海道サービスステーション

〒064-8543
札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏サービスセンター

〒143-0006
東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

名古屋サービスセンター

〒454-0058
名古屋市中川区玉川町2丁目1-2 ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪サービスセンター

〒564-0052
吹田市広芝町10-28 オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州サービスステーション

〒812-8508
福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号などは変更になる場合があります。

付

録

ヤマハ株式会社

電子ピアノの機能や取り扱いについては、ご購入の特約店または下記ヤマハお客様コミュニケーションセンターへお問い合わせください。

お客様コミュニケーションセンター 電子ピアノ・キーボードご相談窓口

 **0570-006-808**

ナビダイヤル® ※ 一般電話、公衆電話からは、市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは TEL 053-460-5272

営業時間：月曜日～金曜日 10:00～18:00、土曜日 10:00～17:00
(祝日およびセンター指定休日を除く)

<http://jp.yamaha.com/support/>

- ・ ピアノ/キーボードのホームページ
<http://jp.yamaha.com/products/musical-instruments/keyboards/>
- ・ ヤマハマニュアルライブラリー
<http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/>
- ・ あなたの音楽生活をフルサポート
ミュージックイークラブ
<http://www.music-eclub.com/>

デジタル楽器事業部 マーケティング部 CL・PKグループ

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町 10-1

※ 都合により、住所、電話番号、名称、営業時間などが変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。